

その他経費（廃棄物処理費） 灰処理費の算定について

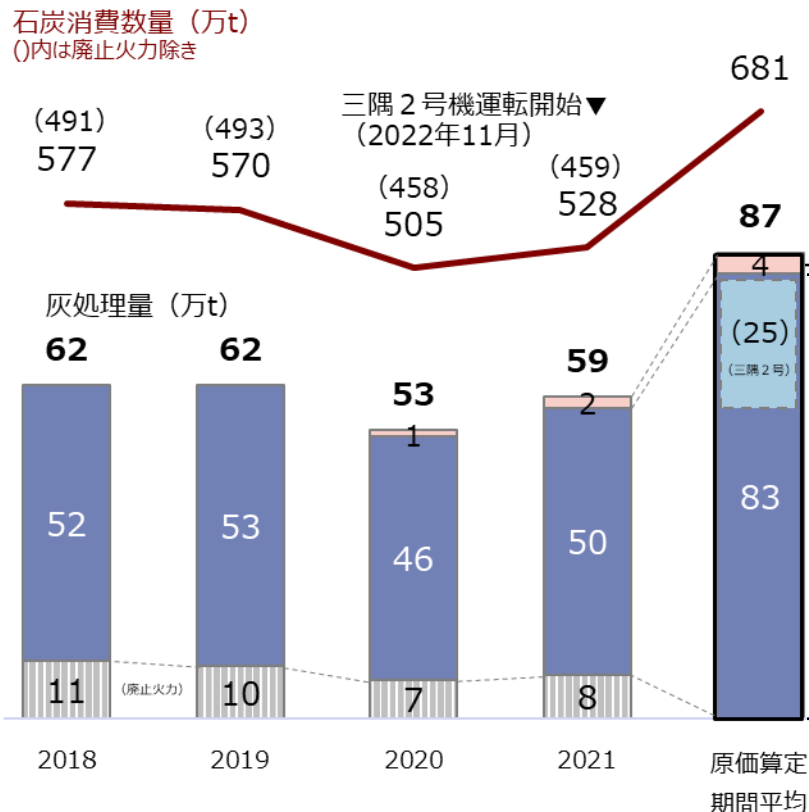
（第34回料金制度専門会合における委員からのご指摘に対する当社回答）

2023年 3月24日
中国電力株式会社

灰処理量の算定について

- 灰処理量の算定にあたっては、「電源構成の変化」および「低品位炭の活用」などの当社の取り組みを考慮し、①石炭消費により発生する量および②バイオマス混焼により発生する量を算定しております。
- 石炭消費に伴う灰処理量は、発電所ごとに算定しており、石炭消費数量に、実績ベースの処理量に申請時点での直近の調達における灰分上昇を加味し、83万tを織り込んでいます。石炭消費数量が大きく増加するなか、安定的かつ安価に必要な数量を確保するよう取り組んでおり、直近の調達実績を考慮しております。
- また、バイオマス混焼に伴う灰処理量は4万tを織り込んでいます。

【石炭消費数量・灰処理量の推移】



②バイオマス混焼に伴う灰処理（4万t）

- ②-1 新小野田発電所バイオマス混焼（混焼率8%）
1.6万t（実績をもとにバイオ燃料計画消費数量を考慮し算定）
- ②-2 三隅 2号機バイオマス混焼（混焼率10%）
2.0万t（新小野田発電所の実績をもとに算定）

①石炭消費に伴う灰処理（83万t）

実績および申請時点での直近の調達における灰分上昇を踏まえ灰処理量を算定（低品位炭活用による灰分上昇影響を含む）

	石炭消費 計画数量	実績ベース		直近の灰分上昇		灰処理量 合計
		灰発生率	灰処理量	灰発生率	灰処理量	
三隅	442万t	11.2%	49.5万t	1.1%※2	4.9万t	54.4万t
新小野田	238万t	10.9%※1	26.0万t	1.1%※2	2.6万t	28.6万t
合計	681万t		75.5万t		7.5万t	83.0万t (25.0万t)

注（ ）内は三隅発電所 2号機運転開始に伴う影響

※1 バイオマス混焼に伴う灰処理量を除いた水準

※2 申請時点における直近の主要調達国（豪州）の灰分上昇を反映

低品位炭活用に伴い発生した灰処理量について

- 当社は、価格優位性のある低品位炭の調達に継続的に取り組んでおり、原価算定期間において、82億円の燃料費低減効果を織り込んでいます。
- 一方で当社の調達する石炭においては、低品位炭は標準品位の石炭より灰分比率が相対的に高いことから、低品位炭の活用により、灰処理量で6万t程度、灰処理費で10億円程度の増加を見込んでいます。
- なお、電源構成の変化および低品位炭の活用等により灰処理量が大幅に増加しますが、新たな委託先との契約締結など、対応を進めております。

【低品位炭活用における灰処理量の増加】

$$\underline{681\text{万t} \times 16.4\% \times 5\% = 6\text{万t程度}}$$

原価算定期間における低品位炭の導入割合	16.4%
当社調達実績における低品位炭と標準品位の石炭における灰分の差	5%